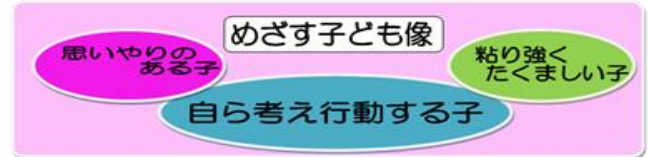




### めざす学校像

互いに認め合い、高め合う学校  
みんなが安心できる居心地のいい学校  
開かれた学校（学校・家庭・地域がつながりあうことを大切にす学校）



令和3年(2021年)1月26日発行・野畑花だよりは、野畑小学校のホームページでもご覧いただけます。http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/nobatake/

いつでもここに (ハ) (ハ) (ハ) (ハ) (ハ) のびのび 野畑 合言葉 (ハ) バリアフリーで 笑顔がいっぱい (ハ) 体験 楽しい 学びたい (ハ) 計画立てて 相談 確認

## 豊中市立小・中学校 医療的ケア看護師の募集について

令和3年(2021年)4月から勤務していただける看護師を募集しています。

【勤務場所】 豊中市立小・中学校・豊中市教育センター 及び 市立豊中病院

【勤務時間】 8:30~15:45 までの日が週4日と  
8:30~16:45 までの日が週1日の **週5日間**

【業務内容】 小・中学校に在籍する児童生徒への医療的ケアの実施  
市立豊中病院における外来診療補助業務

【報酬】 月額 196,050円 (令和2年(2020年)11月現在)  
期末手当あり

## 豊中市立小・中学校 障害児介助員の募集について

令和3年(2021年)4月から勤務していただける障害児介助員を募集しています。

【勤務場所】 豊中市立小・中学校

【勤務時間】 8:15~14:00 までの日が週2日と  
8:15~16:00 までの日が週3日の **週5日間**

【業務内容】 障害児の介助業務

【報酬】 時間給 1,277円 (令和2年(2020年)11月現在)  
期末手当あり

※申し込み方法は豊中市のホームページをご覧ください。

お問い合わせは 豊中市教育委員会事務局 児童生徒課 支援教育係  
電話 06-6844-5293 住所 豊中市蛭池中町3-2-1-600 豊中市教育センター内

## 医療的ケア児 通学支えるには



■学校看護師ら1人あたりの医療的ケア児の人数

- ①茨城県 4.14人
- ②香川県 4.07人
- ③沖縄県 3.84人
- ④徳島県 3.00人
- ⑤滋賀県 2.81人
- .....
- ⑬京都府 0.57人
- ⑭三重県 0.55人
- ⑮奈良県 0.53人
- ⑯大阪府 0.44人
- ⑰静岡県 0.43人

※医療的ケアの研修を受けた教職員を含む  
※文部科学省「学校における医療的ケアに関する実態調査」(2019年11月時点)から集計

◎杉山美香さんと娘のあんじさん  
＝本人提供  
◎給食の時間にお盆を渡す木野翔太さん(中央)。その脇から看護師が木野さんの給食を胃ろうに注入していた＝大阪府豊中市の南桜塚小

### 看護師の配置や裁量に地域差

20歳未満の医療的ケア児は約2万人とされ、過去10年間で2倍に増えた。文部科学省によると、幼稚園・高校に在籍するケア児は約1万人で、このうち約8400人が特別支援学校に在籍している。

特別支援学校では、通学している約5700人の1割近い460人の保護者が校内で付き添いをしていくという。地域の幼稚園や小中学校に通うケア児を含めると、その数はさらに膨らむとみられる。

通学には、看護師や医療的ケアの研修を受けた教職員の配置が欠かせない。文科省によると2019年11月時点で特別支援学校に2430人、地域の幼稚園と小中学校に1122人の看護師が配置されているが、地域差も大きい。

茨城県内では、特別支援学校に117人、地域の幼稚園と小中学校に28人のケア児が

「明日の給食は何だろう」茨城県の水戸特別支援学校 中学部3年の杉山あんじさん(15)は学校に行くのが大好きだ。ただ、登校には母親の美香さん(37)が常に教室で付き添っている必要がある。

アイセル病という先天性の代謝異常があり、言葉が話すことはできるが、移動には車いすが必要。小学部入学前に呼吸不全を起こし、人工呼吸器を使っている。

入学当初は入退院を繰り返して、病院内の学級や、教師が自宅を訪れる訪問教育を受けていた。県教育委員会と交

渉の末、中学部進学後から通学できることになったが、美香さんが付き添っていたのが、引などのケアをするのが条件とされた。

通学を始めて間もない頃、翔太さんは、筋肉などを作るコラーゲンに異常がある「エラス・タンパク質症候群」の疑いがある。歩くことができず、給食もペースト状にしておなかの胃ろうから入れている。橋本直樹校長は「車いすを押ししていた女の子は最近まで、登校しては教室に入れなかったんです」と話している。障音のある子と触れ合うことで、障音のない子にもいい影響が出ているという。

豊中市では、ケア児でもまず、住んでいる地域の小中学校が就学先とされる。最終的に特別支援学校を選ぶ子もいるが、現在12人が九つの小中学校に通っているという。

背景の一つに、人権教育に力を入れた市の歴史がある。市は1978年に障害児教育基本方針を作り、障音のある子どもたちの教育保障を掲げてきた。現在常勤2人、非常勤20人の看護師を雇い、ケア児が通う学校にローテーションで派遣。看護師が休むとケアをする人がいないという状況を避ける工夫もしている。

ただ、看護師の確保には苦労しているという。常勤看護師の植田陽子さんは「学校看護師の仕事がキャリアとして認知されていないのが大きい」と指摘する。

### 親の付き添い条件 教室内で常に

特別支援学校でも、保護者の付き添いを求めるケースが相次いでいる。学校での受け入れ態勢は地域差も大きい。教職員への研修や看護師の確保などが課題となっている。

### 特別支援校でも

「明日の給食は何だろう」

美香さんがトイレに行くとき、先生があんじさんを連れてついでにきた。「これでは私がトイレに行くたびに娘は中座することになる」。美香さんは仕方なく、膀胱の活動を抑える薬を飲んでいったという。

あんじさんは今年、高等部への進学を目指している。美香さんの付き添いはあと3年間続く。

豊中市では、40年以上前から障害のある子どもたちが地域の学校に入学し、地域で生活することに重きを置いてきました。2016年に改訂された基本方針では、障害の有無にかかわらず、すべての子どもたちが「ともに学び、ともに育つ」教育をさらに充実・発展させ、新たな時代における豊中市としてのインクルーシブ教育を実現するとしています。本校においても、この「豊中市障害児教育基本方針(改訂版)」に沿って、下記のように基本方針を作成し、「互いに認め合い、高め合う学校」をめざしています。裏面に、永田町未来会議の皆さんが2019年11月に本校の見学に来られた時の記事を掲載しています。ご一読ください。